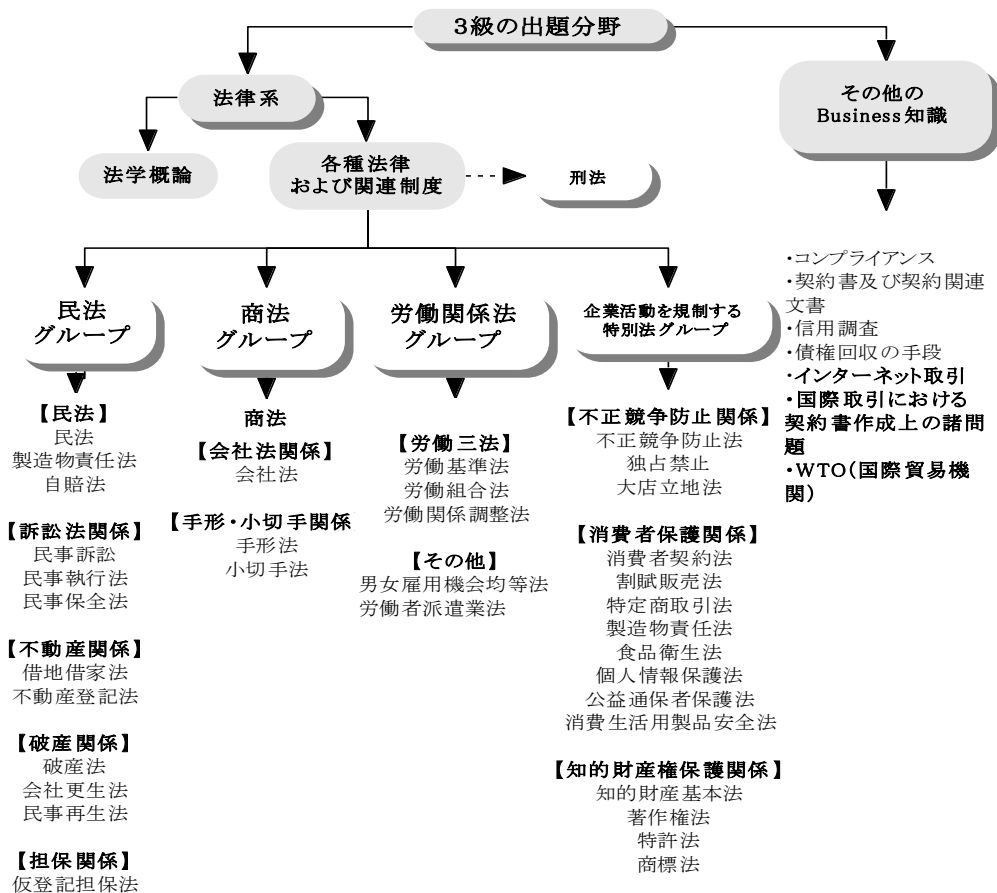


出題分野と受験対策について

1. 3 級の出題分野

3 級の出題分野については下記に示すとおり非常に多岐に渡る。従って、まともに全分野を学習するとすると一発合格は望めない。所詮、70 点で合格できる試験である。そこで、出題される部分を中心に学習していく必要がある。

出題傾向を分析した結果、出題の中心は民法・会社法である。そして、特に、民法はきちんとマスターする必要がある。民法を学ぶと、各種の法律の基本をなす考え方を学ぶことができるからである。

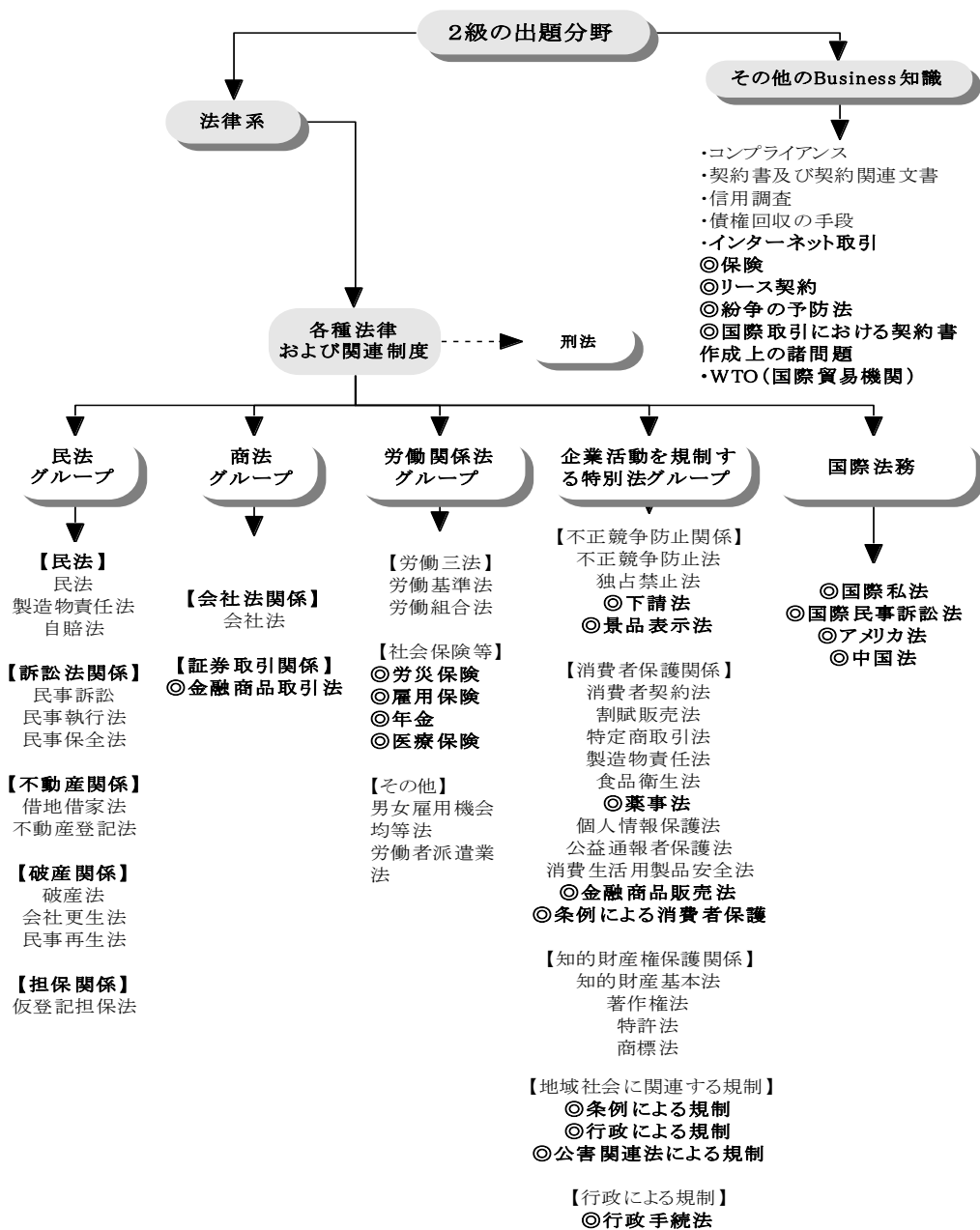


※出題される法律については、代表的なものに限定

先述のように、出題分野の中心は民法・会社法であるが、この二つの法律に限定しても、出題範囲はかなり広い。しかし、実際によく出題されるのは、民法の分野でも財産法が出題の中心である

し、商法の分野でも、会社法が出題の中心となる。

2. 2 級の出題分野



◎の部分は2級で新たに学習する部分。

2 級の試験は、3 級程度の知識をマスターしていることが前提となる。また、新たに学習する分野も多くなっている。しかし、注意しなければならないことは、3 級で既に学習済みの分野であっても、もう一步踏み込んだ知識が問われるということである。すなわち、出題者は 3 級の知識を前提として、より細かな知識（実際のビジネスで本当に役立つ知識）が出題される。

また、出題分野についても、ある程度の偏りはあるにしても、3 級と比較すると全範囲、万遍なく出題される傾向がある。

第29回試験の傾向と第30回試験への対策

1. 3級の傾向と対策

(1) 出題形式

3級の出題形式は若干複雑であるが、基本的には正誤問題である。具体的には、以下のとおりである。

第1問 ◆一問一答→1点×10問:10点

第2問 ◆文章完成→5点×2問:10点

第3問 ◆四肢択一→2点×5問:10点

第4問 ◆一問一答→1点×10問:10点

第5問 ◆文章完成→5点×2問:10点

第6問 ◆四肢択一→2点×5問:10点

第7問 ◆文章完成→5点×2問:10点

第8問 ◆一問一答→1点×10問:10点

第9問 ◆文章完成→5点×2問:10点

第10問 ◆四肢択一→2点×5問:10点

(2) 傾向

全体的に前回の試験(第28回試験)と比較すると、難易度は少し上昇した。

近時、3級に関しては難易度が上昇しており、その傾向は今後も変わらないものと思われる。近時の難易度上昇の原因は、①2級レベルの知識が問われたこと③四肢択一については、事例問題が標準的な出題となりつつあることである。

(3) 対策

1. まず、一番有効な対策は、3・2級を同時受験することである。
2. 次に、3級のみ受験するのであれば、特定重要分野については、2級レベルの問題を同時にマスターすることである。
3. 第三に、今までは、民法・会社法のみで、軽く合格できた。現在もその傾向は存在するが、若干特別法のウエイトが上がってきている。従って、特に、知的財産権と消費者保護法、独占禁止法については力を入れる必要がある。

2. 2 級の傾向と対策

（1）出題形式

2 級の出題形式は単純である。五肢択一問題が40題出題される。前半の20問の配点は1問あたり3点であり、後半の20問の配点は、1問あたり2点である。

前半20問は、後半20問と比較すると、1問あたりの文章が長く、若干難易度が高い傾向にある。

（2）傾向

1. 第29回試験は前回（第28回試験）と比較すると、若干難しくなった。従って、合格率は少し下降するものと思われる。

2. 第29回試験が若干難しくなった原因は以下のとおりである。

①全体的に問題文が少し長くなった。前回（第28回試験）は、近時では最も問題文が短かったが、今回の試験は全体的に問題文は長くなった。

②例年、少数ながら、公式テキストに記載されていない知識が出題されている。しかし、今回出題された知識はほとんどが公式テキストに記載されている知識のみであり、その点では簡単になったはずであるが、かつて出題された難問といえる肢の出題数が多く、しかも、更に一ひねりしている出題もあったため、全体的には難易度は上昇した。

③実質的に総合問題の出題数が増え、全範囲を万遍なく潰しておかないと点数が取れない問題が出題された。

④事例問題の出題数は増加してはいないが、複雑な事例の数が少し増え、問題を解くのに少々時間がかかる問題が多かった。

3. 第25回試験から、第26回試験、第27回試験と段々難しくなっていた。第27回試験では、難易度が急激にアップしたので、第28回試験はそのやり戻しで、かなり簡単になった。おそらく、今回の試験は前回少し簡単にしすぎたので、その調整のために難易度を上昇させたのではないかと推測される。次回（第30回試験）の予想は難しいが、今回の試験の合格率が大幅に下がった場合には、次回（第30回試験）は簡単になるであろうと思われる。

（3）対策

1. まず、一番有効な対策は、基礎知識を確実にマスターすることである。こまかな知識に泥濘せず、基礎知識を充実させることこそが、合格への近道であると確信する。

2. 次に、ひっかけ問題や応用力を試す問題の対策として、問題演習に力を入れることである。

一発合格のための対策

1. 3 級の場合

3 級の場合、近時、難易度が上昇しているが、それ程特殊な対策は必要ない。基礎知識をマスターすれば、ほとんどの人は一発合格できるはずである。従って、以下の点に配慮して、学習すれば十分である。



受験対策の P o i n t

①出題可能性の高い分野である民法・会社法に力をいれて学習する。

②2 級の試験対策も視野にいて、3 級学習段階で、基礎知識を完全にマスターする。

ここまでは、3 級のみ受験の人も、3・2 級同時受験の人も、押えるべきポイントであるが、3・2 級同時受験の人は更に、以下の点にも注意する必要がある。

③3・2 級同時受験の人は、3 級については、満点を狙う勉強をすべきである。

2 級では、3 級と比較すると、かなり難度が高い知識が出題される。従って、3 級程度の基礎知識は完璧にしておかないと、2 級を学習する際の負担が非常に大きくなる（負担の適正配分のため）。

2. 2級の場合

2級の場合，第20回試験では難易度の低下が見られたが，第21回～22回試験からすれば，明らかに，難易度が上昇している。基本的には，以下の点に配慮して学習すべきである。



受験対策の P o i n t

① 3級の知識を完全にマスターした上で，細かい知識をマスターする。←この部分は比較的難しい出題が多い！

特に，合否を分ける民法・会社法では，応用問題が出題される。

また，2級の公式テキストには記載されていないが3級の公式テキストには記載されている知識が，ほぼ毎回1～2題は出題されている。

② 2級で新たに学習する分野について知識を入れる。←この部分は比較的簡単な出題が多い！

③ 出題可能性の高い分野については弱点を作らない。

以上の点を踏まえた上で，更に注意することは，満点を狙わないということである。確かに，2級の場合，難易度は上昇しているが，しょせん，70点をとれば，合格できる試験である。2級の出題数は40問であるが，配点は前半は3点，後半は2点である。従って，10題～15題間違っても，合格できる。

難易度の高い問題に泥濘せず，基礎知識に関する問題を確実に取れば，必ず合格できる。